

令和元年6月21日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26284096

研究課題名(和文)小西家資料の総合的研究

研究課題名(英文)Comprehensive study on the Konishi family's materials

研究代表者

飯塚 一幸 (IIZUKA, kazuyuki)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：50259892

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,000,000円

研究成果の概要(和文)：伊丹市の小西家は日本を代表する酒造家である。本研究は、小西酒造の蔵から発見された新資料を対象に、その目録化を図る、新資料を基に学際的研究を行う、学際的研究の成果を書籍として刊行することを目的とした。

本研究の成果は以下の通りである。(1)文書については2万8133点、典籍については1279点を目録化した。(2)「小西家資料研究会」を立ち上げ、小西家を取り巻く人的ネットワークと、それを基に小西家が伊丹地域の近代化を支えた実態を明らかにした。(3)研究代表者・研究分担者、研究会に参加した若手研究者により、論文集を刊行することで出版社と合意した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

伊丹市の小西家は日本を代表する酒造家である。本研究は、小西酒造の蔵から発見された新資料を主な対象として、在来産業の担い手である小西家が酒造業で蓄積した富に依拠しつつ、大坂の両替商長田家との親族関係を基に、その膨大な典籍を引き継ぎ蔵書とし、伊丹小学校の設立を主導して財政的に支え、大阪財界の進める鉄道事業に関わるなど、伊丹地域の近代化を経済・教育・文化といった多方面から支えた実態を明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The Konishi family of Itami City is one of the most famous breweries in Japan. This study, which focuses on new materials that were found in the family's storehouse, was conducted to () catalogue the new materials, () conduct a multi-disciplinary study based on the new materials, and () to publish the achievements of the multi-disciplinary study. The achievements of the study are as follows: (1) 28,133 pieces of old documents and 1,279 pieces of old books were catalogued; (2) the Konishi Family's Materials Study Group was established to identify the human network around the Konishi family as well as the situation in which the Konishi family supported the modernization of the Itami area by utilizing the network; and (3) the publishing of proceedings by the principal investigator, co-investigators, and the young researchers who participated in the study group was agreed with a publisher.

研究分野：日本近代史

キーワード：日本史 思想史 酒造業 近代化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 伊丹市立博物館 2012 年度秋期企画展の実施にあたり、小西家の萬歳蔵の再調査を実施したところ、未見の資料群が存在することが判明した。この展示の作成に関わっていた大阪大学日本史研究室の大学院生から上記の情報を得た飯塚一幸(研究代表者)と、伊丹市資料史等専門委員会委員を務める奥村弘(研究分担者)は、伊丹市立博物館の協力を得て 2013 年 9 月に萬歳蔵に赴き、資料の所在状況を調査した。その結果、近世中後期から昭和期に至る書簡群、明治期以降の書類や経営帳簿類、漢籍・和書などの大量の典籍を納めた約 1000 箱に及び木箱の存在を確認した。概数にして、古文書 5 万点、典籍 1 万冊を超えると推測される一大資料群である。

(2) 飯塚・奥村は、新出の小西家資料が日本を代表する酒造家の近世から近代に及び貴重な文化遺産であり、その全貌を明らかにするには、日本史だけでなく日本文学・思想史・経済史の研究者も加えたチームを組織することが必要と考え、大阪大学と神戸大学の関係教員を集めて本研究課題を申請することに決めた。

(3) 近世の伊丹地域は、上方の江戸積酒造地の中心地として栄えた在郷町であり、小西家は近世後期から幕末期にかけて伊丹第一の酒造家の地位を占めた。明治以降も、小西家は酒造業を核としつつ、鉄道業や銀行業などに投資を行うなど経営の多角化を進め、さらなる成長を遂げていった。

小西家に残された資料については、近世史料約 12000 点、近代史料約 6000 点が伊丹市立博物館に寄託され、その目録として『小西新右衛門氏文書(近世編)』上・下(1995 年)、『同(近代編)』(1999 年)が刊行されている。また、近世史料集として、『伊丹酒造家史料』上・下(1992 年)がある。これらの史料を利用して、これまで以下のような点が明らかにされている。

近世から明治初期にかけて酒造家として成長した過程

・小西家は、近世後期から幕末期にかけて、江戸に下り酒問屋として自ら出店を構えるなど、酒造業を中心として製造から輸送・販売までを一手に担う同族組織での経営体制を構築し、新興の灘酒造業に対抗した。明治維新时期には商法司・通商司として明治政府に財政的な貢献をし、その後明治中後期にかけて、酒造経営で得た利益を近代的産業に投資して経営を多角化し、さらなる成長を遂げた。

近世伊丹町政との関わり

・近世伊丹地域はその大半が近衛家の支配下にあり、町政は有力酒造家の中から任命された惣宿老と呼ばれる者が執り行った。小西新右衛門は近世を通じてこの惣宿老を務めたことから、小西家文書を通して伊丹町政の展開過程が明らかにされている。

酒都伊丹の文化との関わり

・伊丹では、豊かな経済力を背景に酒造家が多様な文化活動を担い、近世前期から中期にはいわゆる「伊丹風」俳諧を生み出した。第 4 代霜巴(1654~1732)は俳号を馬桜と号した伊丹俳壇の実力者として知られ、小西家では一族をあげて俳諧を嗜み、その芸道は子孫に受け継がれていった(柿衛文庫編『特別展 もろはくの俳諧 - 元禄の酒都文化 -』2004 年)。

2. 研究の目的

(1) 伊丹市の小西家は近世から現代に至る日本を代表する酒造家である。本研究は、伊丹市立博物館に寄託されている同家史料に加え、小西酒造萬歳蔵から新たに発見された資料をも対象として、以下の目的の下に実施する。小西家資料は酒造業の経営史料としてだけでなく、政治・社会・文化各方面に及び量質ともに極めて貴重なものである。そこで、「小西家資料研究会」を立ち上げ、小西家資料から得られた新たな知見を基に、近世史・近代史・思想史・経済史・文学にまたがる学際的研究を行う。学際的研究を踏まえ、『小西家資料の総合的研究(仮)』を刊行する。前提として、小西酒造萬歳蔵に収蔵されている新出の小西家資料の目録化を行い、CD-R の配布という方法でその全容を公開する。

(2) 小西家資料の学際的研究におけるテーマには様々な可能性があり得るが、さしあたり以下のような課題を解明すべき課題として挙げておく。

近世の小西家を取り巻く人的・思想的ネットワーク

・近世後期になると、伊丹の町人たちは国学や漢学に対して高い関心を示し、多くの文人墨客・勤王家が伊丹を訪れた。伊丹の酒造家たちは彼らのパトロンであり、自らも文化人であった。小西家も代々俳諧・和歌・漢詩・書画への造詣が深く、多くの文化人との交流があり、新出の小西家資料には、懐徳堂最大の学問的業績を残した中井履軒、大坂で活躍し紀州徳川家の御用絵師となった上田公長をはじめ、中島綜隠・足代弘訓・中村良臣・加納諸平・橋本香坡・太田北山など、大坂周辺の漢学者・国学者・文人・画家などの書簡類が多数含まれている。これらの資料により、近世後期から幕末維新时期の小西家を取り巻く人的・思想的ネットワークを解明し、大坂近郊の在郷町における知的状況を具体的に把握することが可能となる。

蔵書の内実と図書館機能

・萬歳蔵には、漢籍・和書など極めて多岐にわたる書物が残されており、その総数は 1 万冊を超えると推測される。その全貌を明らかにできれば、思想史研究・日本文学研究にも裨益するところ大であることは言うまでもない。また、これらの書籍は、伊丹内外に頻りに貸し出され、読書サークルでも使用されていた。近世伊丹地域では、<知的読書>とでも言うべき読書行為が豊かに存在していたとされるが(横田冬彦「近世民衆世界における知的読書の成立」『江戸の

思想』5、1996年）この蔵書群からその内実の解明が一段と進むであろう。

酒造業の経営史的・技術史的分析

・高度経済成長以降、多くの酒造経営資料が失われている。その中で、既出の伊丹市立博物館寄託分と合わせると、近世から昭和期までの酒造経営資料が全体として得られる意義は極めて大きい。すでに鎌谷親善が「17・18世紀交代期における伊丹の酒」(1)(2)、『地域研究いたみ』29・30、2000・2001年)で伊丹酒造業の技術的検討を行っているが、日本における酒造業の展開を、技術的変容を踏まえて包括的に分析することが可能となる。また、明治期以降の酒造業の展開と地域経済の変容の関係を明らかにすることで、在来産業と近代化の問題についても豊かな知見を得られるだろう。

近代の小西家の人的ネットワークと政治・経済活動

・小西家の11代当主業茂(1851~1906)は、1882年の日本銀行設立に際し監事に就任している。また業茂は、大阪財界が進めた鉄道事業などに積極的に加わり、大阪財界の一員としても活動していた。こうした中央財界・大阪財界との深い繋がりから、新出の小西家資料には、松方正義・富田鉄之助・益田孝・小林一三・近衛篤磨・近衛文磨など著名な政治家・実業家からの書簡が大量に残されている。会社関係書類とも組み合わせると、近代における小西家の多彩な人的ネットワークが浮き彫りになり、経済的活動だけでなく、政治的・文化的活動にまで及び具体像が見えてくるものと期待される。

3. 研究の方法

(1) 大阪大学大学院文学研究科日本史研究室と日本文学・国語学の研究室、神戸大学大学院人文学研究科日本史研究室と日本文学研究室の学部学生・院生に協力してもらい、小西酒造萬歳蔵所蔵の新出資料の目録化を進めた。また、目録化を終えた資料の中で本研究に必要と認められた分について、文書は撮影、典籍はスキャンを行い、それらのデータを収めたDVDを研究代表者・研究分担者・伊丹市立博物館・小西酒造に配布した。

(2) 研究代表者・研究分担者は、各自の専門に従い研究課題にそって、各地の図書館・博物館・資料館などで、関係資料・文献の収集を行った。

(3) 小西酒造萬歳蔵所蔵の新出資料から得られた新たな知見や資料情報を共有し、研究課題の進捗状況を確認し、本研究の成果を挙げるために、「小西家資料研究会」を立ち上げ、年一回ないし二回のペースで研究会を開催した。

(4) 本研究の目的を達成するために、研究代表者が所属する大阪大学大学院文学研究科の大学院生1名を特任研究員として雇用した。

4. 研究成果

伊丹市の小西家は、近世から現代に至る日本を代表する酒造家である。本研究は、小西酒造萬歳蔵から発見された新資料を対象に、その目録化を図り、CD-Rの配布という方法で目録を公開する、その新資料から得られた新たな知見を基に、近世史・近代史・思想史・経済史・文学にまたがる学際的研究を行う、学際的研究の成果を書籍にまとめ刊行する、ことを目的とした。

本研究の成果は以下の通りである。

(1) 文書については2万8133点、典籍については1279点を目録化し、目録データをCD-Rに収めて研究代表者・研究分担者、関係機関に配布した。

(2) 「小西家資料研究会」を立ち上げ、年に一回もしくは二回ずつ研究会を開催した。研究期間中に研究会の参加者は、新出の小西家資料を活用して次のような論文・史料集を刊行した。

久野洋「在郷町伊丹の近代化過程 - 鉄道敷設過程をとおして - 」(『ヒストリア』246号、2014年10月)

高岡萌「「私立」伊丹小学校の創立と「公立」への転換」(『地域研究いたみ』45号、2016年3月)

濱田恭幸「旧両替商長田家の処分過程と親族小西新右衛門家 - 「長田事件」を中心に - 」(『地域研究いたみ』46号、2017年3月)

奥村弘・久野洋監修・執筆『伊丹市立博物館史料集 12 明治期伊丹の鉄道』(伊丹市立博物館、2017年3月)

加えて、研究会の参加者ではないが、新出の小西家資料を使った論文として、今井美紀「伊丹郷町の文化的特質：郷学明倫堂橋本香坡と幕末期伊丹の町人文化」(『ヒストリア』246号、2014年10月)もある。

これらに論文等により、小西家が大阪財界の進める鉄道事業に積極的に加わっていた実態、小西家が主導して設立し財政的に支えていた「私立」伊丹小学校が「公立」小学校へと転換していく経緯、小西家が所蔵している膨大な典籍の約三分の一は、明治初期に経営破綻した大阪の両替商長田家のコレクションを引き継いだものであること、小西家がパトロンとなっていた幕末期伊丹の町人文化を支えた人的ネットワークなどが、明らかとなった。

(3) 本研究の研究代表者・研究分担者、研究会に参加した若手研究者合わせて8名により、論文集『近世・近代の酒造業と地域社会 - 伊丹の酒造家小西家の場合(仮)』を刊行することで、吉川弘文館と合意している。刊行時期は2021年度を予定している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

飯塚一幸、日露戦争時の軍事郵便 - 陸軍歩兵中尉南樞一郎宛書簡を中心に -、枚方市史年報、査読無、Vol.21、2019、1-15

村田路人、触の書き留められ方 - 触留帳論の試み -、枚方市史年報、査読無、Vol.20、2018、1-24

高槻泰郎、廣岡家文書と大同生命文書 - 大坂豪商・加島屋(廣岡家)の概容 -、三井文庫論叢、査読無、Vol.51、2017、303-394

高槻泰郎、近世日本における相場情報の通信技術、電子情報通信学会誌、査読無、Vol.100-9、2017、987-991

奥村弘、地域歴史文化拠点としての大学の重要性:災害が続く日本列島での取り組みから、歴史学研究、査読有、Vol.955、2017、40-44

田中康二、『竺志船物語』の設定、国文論叢、査読無、Vol.51、2016、62-75

飯塚一幸、地域社会の変容と地方名望家、歴史科学、査読有、Vol.219、2015、18-31

田中康二、源氏物語玉の小櫛、日本文藝研究、査読無、Vol.66-1、2014、1-38

田中康二、宣長国学における歌 - 敷島の歌・うひ山ぶみ -、日本思想史学、査読無、Vol.46、2014、17-25

奥村弘、明治地方自治制における「生存権」と地域社会の位置づけについて、ヒストリア、査読有、Vol.247、2014、252-259

奥村弘、被災歴史資料と災害資料の保存から歴史研究へ、歴史学研究、査読有、Vol.924、2014、204-213

〔学会発表〕(計 9 件)

高槻泰郎、大坂豪商・加島屋久右衛門の資本蓄積過程、社会経済史学会第 87 回全国大会、2018、大阪大学

高槻泰郎、近世日本社会の気候変動への対応、社会経済史学会第 86 回全国大会、2017、慶應義塾大学

田中康二、人文系失敗学の提唱 - をかし・おかし別語説の教訓に学ぶ -、日本語学会、2017、関西大学

奥村弘、人文情報の文理融合研究と地域学創出、神戸大学先端融合研究環新規プロジェクトキックオフシンポジウム、2017、神戸大学

高槻泰郎、近世日本の商秩序、法制史学会、2016、東京大学

宇野田尚哉、松江藩儒桃白鹿の『大学』解釈、日本思想史学会、2016、関西大学

高槻泰郎、金納御手伝普請に関する一考察 - 天明大火後の御所造営と熊本藩 -、近世政治史研究会、2014、東京大学史料編纂所

村田路人、書評熊谷光子著『畿内・近国の旗本知行と在代官』、大阪歴史科学協議会、2014、クレオ大阪中央

飯塚一幸他、阪大史学系の新しい教育、大阪大学歴史教育研究会・史学会、2014、大阪大学中之島センター

〔図書〕(計 15 件)

村田路人、塙書房、近世畿内近国支配論、2019、432

宇野田尚哉他、京都大学学術出版会、京大生小野君の占領期獄中日記、2018、316

飯塚一幸他、思文閣出版、吉田清成関係文書書翰篇 5・書類篇 3、2018、573

奥村弘、神戸大学出版会、地域歴史遺産と現代社会、2018、282

飯塚一幸他、大阪大学出版会、帝国日本の移動と動員、2018、361

田中康二他、笠間書院、古典文学の常識を疑う、2017、240

飯塚一幸、吉川弘文館、明治期の地方制度と名望家、2017、308

田中康二、中央公論新社、真淵と宣長 - 「松坂の一夜」の史実と真実 -、2017、257

奥村弘他、伊丹市立博物館、伊丹市立博物館史料集 12 明治期伊丹の鉄道、2017、174

飯塚一幸、吉川弘文館、日本近代の歴史 3 日清・日露戦争と帝国日本、2016、243

高槻泰郎他、日本経済評論社、経営史学の 50 年、2015、412

田中康二、中央公論新社、本居宣長 - 文学と思想の巨人、2014、243

田中康二他、笠間書院、江戸文学を選び直す、2014、201

村田路人他、岩波書店、岩波講座日本歴史第 12 巻近世 3、2014、328

飯塚一幸他、千倉書房、原敬と政党政治の確立、2014、686

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：村田路人

ローマ字氏名：MURATA.michihito

所属研究機関名：大阪大学
部局名：文学研究科
職名：教授
研究者番号（8桁）：40144414

研究分担者氏名：宇野田尚哉
ローマ字氏名：UNODA.shouya
所属研究機関名：大阪大学
部局名：文学研究科
職名：教授
研究者番号：50324893

研究分担者氏名：奥村弘
ローマ字氏名：OKUMURA.hiroshi
所属研究機関名：神戸大学
部局名：人文学研究科
職名：教授
研究者番号：60185551

研究分担者氏名：高槻泰郎
ローマ字氏名：TAKATUKI.yasuo
所属研究機関名：神戸大学
部局名：経済経営研究所
職名：准教授
研究者番号：70583798

研究分担者氏名：田中康二
ローマ字氏名：TANAKA.koji
所属研究機関名：皇學館大学
部局名：文学部
職名：教授
研究者番号：90269647